

平成29年度 分科会施策の管理シート

分科会名	長寿サポート分科会	会長	多田 敦彦
------	-----------	----	-------

重点項目	「支える医療」の中核づくり	数値目標	【達成時期】平成29年度末 【目標値】カンファレンス実施率を68.4%に、カンファレンス医師参加率を38.5%に上	分科会事務局	長寿支援課
------	---------------	------	--	--------	-------

期 初(前年度末まで)	期 中(~9月)		期 末(~2月)…進捗・評価は見込で可		次年度へ			
	分科会事務局	分科会の意見	分科会事務局	分科会の評価				
【施策名・概要】	【実行する内容】	【達成時期】	【目標値】	【進捗管理】	【課題】			
1	<p><b>地域包括支援センターと病院との連携強化</b></p> <p>地域包括支援センター・サブセンター府中と府中市民病院の地域医療連携室の得意分野を生かした役割分担を行い、退院支援等の業務分掌の調整、高齢者の総合相談窓口としての機能強化を図る。</p>	<p><b>地域包括支援センターや病院の地域医療連携室の業務が、医療・介護連携や認知症対応、退院支援など多岐にわたる対応が求められている。</b></p>	<p><b>医師、多職種・多機関が参加する退院前カンファレンスを徹底する。退院調整状況調査によるカンファレンス実施率51.1%を福山・府中圏域の68.4%に、カンファレンス医師参加率17.4%を同38.5%に上げる。</b></p>	<p>府中市病院機構の医療介護連携室と連携し、府中市民病院では退院時の在宅移行支援に連携して取り組み、府中北市民病院では認知症に関する知識の地域への出前講座や認知症ケアの普及、認知症カフェの開催を支援などに取り組む。今後は、地域包括支援センター・サブセンター府中の強化のため派遣職員を複数配置し、在宅支援部門の強化、高齢者の総合相談窓口としての機能強化を図る。</p>	<p>相談窓口の充実のためには、地域包括支援センターと医療機関などが情報交換することが必要。何をテーマに相談対応を充実させるのかの議論も必要。また、総合相談窓口である地域包括支援センターの認知率が低い。十分にPRすべき。</p>	<p>市民病院看護師とケアマネの連携が奏効し、入退院時のケアマネからの情報提供、退院時カンファレンス実施が増加。カンファレンス実施率等は、県調査が中止されたため測定困難。市独自の集計が必要。</p> <p>市民病院の地域医療連携室と地域包括支援センター・サブセンター間でタイムリーな情報共有を行い、退院支援につなげることができ始めた。H30年4月からサブセンターの人員増強による相談支援・退院支援の調整窓口の体制強化を図る。【再掲】</p>	<p>○退院調整の不徹底から入所施設と病院間で、胃ろう・CVポート造設患者の受け入れに温度差があるなどの課題も露呈している。</p> <p>○退院時カンファレンスの実施など、明確な目標指標を設定して連携強化を推進すべき。</p>	<p>【進捗管理】要</p> <p>【課題】高齢期のアクティビティと小児期の活動の相関関係を背景に、小児・多世代との連携</p>
2	<p><b>協働のプラットフォームづくり事業(仮)</b></p> <p>府中地区医師会との連携を前提とし、圏域内の地域包括支援センターや居宅介護支援事業所、介護サービス事業所、社会福祉協議会等と協議の場を設け、連携・役割分担のルールをつくる。</p>	<p>府中地区医師会圏域では、圏域を単位とした行政間や医療・介護間の連携、住民の主体的な取り組みと専門職の支援体制が必要。</p>	<p><b>ケアマネジャーや社会福祉士、看護師など専門職の力量を高めるためのワーキングチームを設置する。町内会やいきいきサロンに対する出前講座メニューをつくり地域の主体的な取り組みの機運を醸成する。</b></p>	<p>府中地区医師会圏域では、行政間や医療・介護間の連携だけでなく、住民の主体的な取り組みと専門職の支援体制を含めて、すべて圏域を単位とした対応が必要と考えているため、府中地区医師会と連携し、圏域内の地域包括支援センターや居宅介護支援事業所、医療機関等と課題を共有し、対応策を検討する場として「医療介護連携ワーキンググループ」や「人材確保部会」など、あらゆるチャンネルを通じて設けている。</p>	<p>府中地区医師会圏域を一つの圏域として捉えて取り組むことは重要。また、専門職の力量アップのため、人材育成、広域連携に向けた研修を検討すべき。</p>	<p>「医療介護連携WG」や「人材確保部会」など医師会圏域を単位とする連携体制を構築し、行政圏域を越えた協議を実施。医療介護連携WGで連携のための100のチェックポイントを作成し、連携の弊害要因等を検討。【再掲】</p> <p>医療介護連携WGでは、連携のための100のチェックポイントを作成し、連携の弊害要因を分析し対処法を検討。連続講座「まなび塾」では、専門職の総合相談支援能力の強化を目指し実施するも運営体制に課題が残る。地域の主体的な取り組みの機運醸成の仕掛けは不十分。</p>	<p>○今後も事業の継続は必要だが、集中と選択による重点化が必要。</p> <p>○機運を醸成するためにも日常生活圏域ニーズ調査で把握した高齢者のリスクについてのデータを公表すべき。</p>	<p>【進捗管理】否</p> <p>【課題】把握したデータの分析と公表</p>
3								

- (注意事項)
- ① 重点項目ごとに、必ず管理シート1枚以内にまとめること(進捗管理する施策の選択等)。施策の選択の際は、重点項目の目標達成にどの程度貢献するのかも考慮すること。
  - ② 目指す成果の項目には、量的把握が可能なものは全て計量化・数値化することとし、不可能なものについても、望ましい状態や 結果、目標が達成された場合の状態等を具体的に明示すること。
  - ③ 達成度・成果の評価においては、施策の実行に当たってのプロセスも考慮し、総合的な視点から判断を行なうこと。評価の基準については、別紙の「施策の実績・盛夏に係る評価の基準」を参考にすること。
  - ④ 各施策の詳細(具体的な取組等)について、別に資料を添付しても良いこと。

特記事項	
------	--